

国語 (古文)

早稲田大学 法学部 1/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

例年どおり、古文の学力を広範囲にわたって問う出題であった。

<本文分析>

大問番号	(一)
出典 (作者)	慶政『閑居友』
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所も他大学で出題されたことがある。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・ 増加) 約1060字。昨年より約270字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	随筆	問一			
		a	マーク	標準	語の内容(「つれなく」)。
		b	マーク	やや易	語の内容(「うるせし」)。
		問二	マーク	易	語句の空欄補充(副詞「え」に気づくことがポイント)。
		問三	マーク	標準	理由説明。
		問四	マーク	やや難	理由説明(「金品を得たことで」の要素を含む点でホも捨てがたい)。
		問五	マーク	標準	語句の解釈(「あぢきなし、よしなし」)。
		問六	マーク	標準	内容説明(「秋風」に「飽き」が掛けられることもポイント)。
		問七	マーク	標準	内容合致(合致するものを二つ選ぶ)。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文の読解に必要な単語・文法・古文常識・和歌などをマスターし、文脈を正しく把握する力を養成しておくこと。

国語 (漢文)

早稲田大学 法学部 2/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

昨年度同様、5題構成で1題が記述形式、他はマーク形式であった。
 昨年度に比べて、問題文の字数がほぼ2倍に増加した。
 昨年度は漢字が旧字体であったが、今年度は新字体で出題された。問題文に語注が施されていた。

<本文分析>

大問番号	(二)	
出典 (作者)	蘇軾「李氏山房蔵書記」	
頻出度合 ・的中等	蘇軾の作品はしばしば出題される。ただし、当該出典は稀。	
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)	324字。昨年より168字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(二)	随筆	問八	マーク	標準	空欄補充の問題。空欄直前の「賢不肖」と「仁智」についての記述を確認する。
		問九	マーク	標準	書き下し文の問題。「無不——」(二重否定)、「惟」(限定形)に注目するとともに、文末の「乎」と文脈から疑問形を捉える。
		問十	記述	標準	返り点の問題。与えられている解釈を手がかりにして再読文字「当」を捉え、置き字「於」とハイフンでつながれた熟語の返り点のつけ方に注意する。
		問十一	マーク	標準	内容説明の問題。「使」(使役形)、「為可惜」の意味を正しく捉えるとともに、「昔之君子」と「今之学者」の対比に注意する。
		問十二	マーク	やや難	内容合致の問題(合致しないものを選ぶ)。それぞれの選択肢の内容と対応する箇所を本文中から探し、正誤を丁寧に確認する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

漢文は独立した形式として出題される可能性が高いため、漢文の基本構造をしっかりと理解し、重要単語や基本句形、故事成語、漢詩の学習を怠らず、確実な読解力を養成すること。また、白文に対する十分な準備をしておくこと。書き下し文や現代語訳に合わせて白文に返り点を付ける問題は頻出なので、訓練を積んでおくこと。文学史、思想史の学習も怠らないようにしたい。

国語 (現代文)

早稲田大学 法学部 3/4

<総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

昨年度同様、180字の記述問題が出題された。現代の社会や文化が直面する問題を扱う文章が出題される傾向や、空欄補充問題と傍線部説明の選択肢問題を中心に据えた設問形態は例年通り。ただし今年度は、設問数が昨年度よりも一問増え、空欄補充問題の比重は小さくなった。

<本文分析>

大問番号	(三)	(四)
出典 (作者)	崎川修『他者と沈黙 ウィトゲンシュタインからケアの哲学へ』(晃洋書房 2020年刊) 第Ⅱ部 言語ゲームからケアの哲学へ 第八章 魂の在り処 グリーフケアと対話の哲学 の一節。	山田広昭『可能なるアナキズム —マルセル・モースと贈与のモラル』(インスクリプト 2020年刊) 第二章 贈与のモラル Ⅱの一節。
頻出度合 ・的中等	入試に出題されるのは稀な著者の文章である。	入試に出題されるのは稀な著者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4300字。昨年より約1700字増加。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4100字。昨年より約200字減少。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)		
(三)	人間論	問十三	記述	やや難	漢字の書き取り。		
		問十四	マーク	標準	傍線部内容説明。前後の文脈をふまえて傍線部の意味内容を考える。		
		問十五	マーク	やや易	空欄補充。〈死者は、生前と同じ形ではないものの、私と応じあう存在になる〉という文脈を読み取る。		
		問十六	マーク	やや難	傍線部内容説明。傍線部を含む段落とその次の段落から、「具体的な場」において〈生者が死者と対話する〉という内容を押さえる。		
		問十七	マーク	標準	空欄補充。直前の段落で示された「特有の限界と困難」の内容を言い表した語句が入る。		
		問十八	マーク	標準	傍線部理由説明。傍線部以降に示された「還流する対話」の働きに着目する。		
		問十九	マーク	やや難	傍線部理由説明。傍線部の前後の文脈が根拠となるが、傍線部が「重要である理由」としては二が誤りとは言い難い。		
		問二十	マーク	標準	本文内容合致。ホの「死者の「すがた」を相対化すること」は本文の前半の内容に、「新たな世界を受け入れていく」は本文の後半の内容に合致する。		
		(四)	社会論	問二十一	マーク	標準	傍線部内容 (理由) 説明。傍線部の「本当の理由」が説明されている、直後の段落に注目する。
				問二十二	マーク	やや難	傍線部内容説明。傍線部直後の二つの段落から、「ポトラッチ」の二つの特徴を押さえる。
問二十三	マーク			標準	傍線部内容説明。傍線部直後の段落から、「ポトラッチ」における支配をめぐる「両義的な性格」を押さえる。		
問二十四	マーク			標準	傍線部内容説明。傍線部を含む段落に注目し、傍線部とシュミットの議論を正確に説明した口を選ぶ。		
問二十五	記述			標準	傍線部と関連づけて説明する記述問題 (180 字)。「第三のモラルとの関係に留意しつつ」という指示に従い、傍線部直後に示されている「第三のモラル」の内容と関連づけつつ、贈与の「第一のモラル」と「第二のモラル」の内容を説明する。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・難しめの評論や随筆 (特に現代の文化や社会の問題を扱った文章) の問題練習を通じて、本文全体の構造や趣旨を見きわめる力を養うこと。
- ・法学部の過去問に取り組んで傾向になじんでおくこと。
- ・100~180字の多様な記述問題 (本文要約・傍線部説明・作文) に取り組んでおくこと。設問の条件に応じて柔軟に対処しうるだけの、高度な記述力が要求されている。